

---

---

(2) ネットを用いた親貝取り上げ方法の検討

(井戸本純一・橋本佳樹)

目 的

セタジミの大量採卵を効率的に行うには、産卵の始まった飼育池の親貝の全部をその日のうちに取り上げて採卵に供する必要がある。しかし、砂床の中に潜っている貝をすべて取り上げるのには、従来たいへんな時間と労力を要した。

そこで、作業の能率を高め、かつ確実に全部の親貝を取り上げる方法として、砂床の下にあらかじめ取り上げ用のネットを敷いておく方法を検討した。なお、この試験は、前掲の飼育試験に併行して行った。

材料および方法

ネットは、ナイロン製の丈夫なもので、目合は10mm、大きさは飼育池の底面積よりもやや広いものを用いた。

ネットの敷設手順は、まず飼育池の底面にネットを広げ、つぎに砂の流れ止めおよび砂床清掃時の踏み石となるコンクリートブロックを両端および数カ所においてネットを押え、その後、砂を投入して均一にならし、砂床とした。

結果および考察

取り上げは、各池の産卵が確認された6月7日、12日、14日、15日および20日に行った。6月14日および20日には、それぞれ2カ所の池を取り上げた。作業の手順は、まず池の水位を下げ、コンクリートブロックを取り去り、露出したネットの端から順に内側へ引っ張るように持ち上げていった。砂は、当初は約8cmの厚さであったものが約6cmの厚さにまで締まっており、ネットの目を抜けにくかったが、水位を適当に保って水中で揺する

---

---

ようにすれば徐々に抜け、貝だけがネット上に残った。貝は、作業中適宜カゴに移し、付着した砂などを洗い落とした。作業は原則的に1人で行い、その結果、1つの池(2 m×5 m および2.5 m×6 m)を取り上げるのに要する時間は30～40分であった。

従来は、スコップ、移植ごてなどを使って取り上げていたが、取り残しを少なくするためには最終的に人の手によって貝を一つ一つ拾わなければならない、1人で作業した場合、1つの池に1時間以上を要した。漁具に似たレーキ状のジョレンを用いることも検討したが、砂が固く締まっていることから、あまり実用的ではなかった。

この方法を用いることにより、作業時間を半減させ、しかも確実にすべての貝を取り上げることができたが、今後改良すべき点として、砂の抜けをよくするためにホースで水流をあてたり、砂を薄く敷設する方法などについても検討していきたい。